



平成25年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年7月31日

上場会社名 味の素株式会社

上場取引所 東大

コード番号 2802 URL <http://www.ajinomoto.co.jp/>

代表者 (役職名) 取締役社長 (氏名) 伊藤 雅俊

問合せ先責任者 (役職名) 財務部長 (氏名) 小林 幸彦

TEL 03-5250-8161

四半期報告書提出予定日 平成24年8月9日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年3月期第1四半期の連結業績(平成24年4月1日～平成24年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第1四半期	296,725	0.1	19,271	△11.1	20,854	△7.9	10,022	△28.1
24年3月期第1四半期	296,395	△2.6	21,672	△0.7	22,634	1.2	13,940	105.8

(注) 包括利益 25年3月期第1四半期 △14,601百万円 (—%) 24年3月期第1四半期 9,313百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第1四半期	14.91	—
24年3月期第1四半期	20.14	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年3月期第1四半期	1,052,646	616,102	54.5
24年3月期	1,097,057	650,159	55.2

(参考) 自己資本 25年3月期第1四半期 573,615百万円 24年3月期 605,349百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	8.00	—	8.00	16.00
25年3月期	—	—	—	—	—
25年3月期(予想)	—	8.00	—	8.00	16.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年3月期の連結業績予想(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,221,000	2.0	73,500	1.3	76,500	0.8	44,000	5.4	67.61

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料P5. 「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 (2)四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規制」第10条の5に該当するものであります。詳細は、添付資料P5. 「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 (3)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

25年3月期1Q	678,980,654 株	24年3月期	678,980,654 株
25年3月期1Q	13,935,112 株	24年3月期	2,298,309 株
25年3月期1Q	672,053,483 株	24年3月期1Q	692,055,120 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在における将来の見通し、計画のもととなる前提、予測を含んで記載しており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績は、今後様々な要因によって、大きく異なる結果となる可能性があります。業績予想に関する事項は、添付資料P4. 「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3)連結業績予想に関する定性的情報」をご参照下さい。

(決算補足説明資料の入手方法について)

決算補足説明資料は平成24年7月31日(火)に当社ホームページに掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	4
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	9
(3) 継続企業の前提に関する注記	10
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10
(5) セグメント情報等	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結累計期間（平成24年4月1日～平成24年6月30日）における世界経済は、欧州債務危機による金融市場の不安、中国経済の成長率の鈍化等を背景に、全体として減速感が広がっており、弱い回復となっております。

わが国経済は、東日本大震災の復興需要等に支えられ緩やかな持ち直しの動きが見られるものの、円高や電力供給不安等の影響により今後の景気の回復は依然として不透明な状況が続いております。

食品業界におきましては、緩やかなデフレの市況の中、依然として食品原料の価格が高い水準にあり、厳しい状況が続いております。

このような状況の中、当第1四半期連結累計期間の売上高は、前年同期を3億円上回る2,967億円（前年同期比100.1%）となったものの、利益面では、営業利益は前年同期を24億円下回る192億円（前年同期比88.9%）、経常利益は前年同期を17億円下回る208億円（前年同期比92.1%）、四半期純利益は前年同期を39億円下回る100億円（前年同期比71.9%）となりました。

セグメント別の概況

セグメント別の業績は、次のとおりです。

(億円)

	売上高	前期増減	前期比	営業利益	前期増減	前期比
国内食品	1,096	42	104.0%	90	△15	85.6%
海外食品	579	4	100.8%	51	△8	86.0%
バイオ・ファイン	498	△20	96.0%	43	7	121.8%
医薬	181	△14	92.8%	7	△7	50.2%
提携事業	436	△7	98.4%	3	△0	97.1%
その他	174	△2	98.8%	△3	△1	—
合計	2,967	3	100.1%	192	△24	88.9%

(注) 国内外の食品加工業向け「アクティバ®」類、天然系調味料および冷凍食品は、国内食品事業に区分されております。

(国内食品事業)

国内食品事業の売上高は、前年同期を42億円上回る1,096億円（前年同期比104.0%）、営業利益は前年同期を15億円下回る90億円（前年同期比85.6%）となりました。売上高は調味料・加工食品や冷凍食品の売上げが伸びたため、前年同期をやや上回りました。営業利益は、前年、販売費が震災の影響により抑えられた影響もあり、前年同期を下回りました。

<調味料・加工食品>

家庭用調味料・加工食品につきましては、「Cook Do®」（クックドゥ）が大幅に売上げを拡大し、中華だし類やコンソメの売上げも好調に推移しました。ケログ製品の売上げはほぼ前年同期並みとなりました。スープ類やマヨネーズ類の売上げは前年同期から微減となり、うま味調味料「味の素®」や「ほんだし®」の売上げは前年同期を下回りました。

業務用調味料・加工食品につきましては、調味料の新たな用途の提案など販売促進活動が奏功し、売上げは堅調に推移しました。食品加工業向けの食感や物性を向上させる食品用酵素製剤「アクティバ®」類の売上げは、国内の顧客による新規の採用が増加したこともあり、前年同期をやや上回りました。天然系調味料の売上げは、前年をわずかに上回りました。

<デリカ・ベーカリー>

弁当・惣菜等のデリカの売上げは堅調に推移し、ベーカリー製品も、順調に売上げを伸ばしました。

<冷凍食品>

家庭用は「プリプリのエビシューマイ」および「やわらか若鶏から揚げ」の売上げは前年同期を下回りましたが、昨年の震災後に一部休止していた商品の販売が再開したことや「ギョーザ」等が堅調に推移したこと、また「エビ寄せフライ」等の自然解凍により食べることのできる弁当用商品や「具だくさん五目炒飯」等の米飯類が前年同期を大幅に上回ったことにより、順調に売上げを伸ばしました。業務用は大手需要家との取組みが拡大し、売上げは堅調に

推移しました。

<飲料>

主力製品の売上げが伸びたため、全体の売上げも前年同期をやや上回りました。

（海外食品事業）

海外食品事業の売上高は、調味料や加工食品の売上げが伸びたため、前年同期を4億円上回る579億円（前年同期比100.8%）となりましたが、営業利益は、加工用うま味調味料の売上げが減少したこともあり、前年同期を8億円下回る51億円（前年同期比86.0%）となりました。

<調味料>

アジアでは、「味の素®」と風味調味料の販売が伸びたため、売上げは堅調に推移しました。米州では、販売は伸びたものの、売上げは為替の影響により前年同期を下回り、南米における風味調味料の売上げも為替の影響により前年同期を大幅に下回りました。欧州・アフリカでは、西アフリカ諸国における「味の素®」の売上げは前年同期をわずかに下回ったものの、全体として売上げは順調に伸長しました。

<加工食品>

アジアでは、粉末飲料「Birdy® 3in1」（バーディ スリーインワン）の売上げは前年同期並みとなりましたが、缶コーヒー「Birdy®」（バーディ）等の飲料は前年同期を上回り、即席麺は順調に売上げを伸ばしました。

<加工用うま味調味料>

国内では、核融は昨年の震災により落ち込んだ販売数量が回復し、順調に売上げが伸長しましたが、食品加工業向け「味の素®」は販売価格を引き上げたものの販売数量が減少したことにより、前年同期の売上げをやや下回りました。海外では、核融の売上げはアジアを中心に販売価格の引き下げにより販売数量が増加し、前年同期を大きく上回りましたが、為替の影響に加え、競合会社の輸出増加で食品加工業向け「味の素®」の販売数量が減少したことの影響により、売上げは前年同期を大きく下回りました。

（バイオ・ファイン事業）

バイオ・ファイン事業の売上高は、前年同期を20億円下回る498億円（前年同期比96.0%）、営業利益は、飼料用アミノ酸等の貢献により前年同期を7億円上回る43億円（前年同期比121.8%）となりました。

<飼料用アミノ酸>

スレオニンは販売数量が前年同期を上回ったものの、販売価格が低下したため、前年同期の売上げを大幅に下回りました。リジンおよびトリプトファンは好調に推移し、全体として順調に売上げを伸ばしました。

<医薬用・食品用アミノ酸>

販売数量が減少したことにより、国内では、前年同期の売上げを下回り、海外では、為替の影響もあり、北米で売上げが前年同期をわずかに下回り、欧州でも前年同期を下回ったため、全体として売上げは前年同期をやや下回りました。

<甘味料>

加工用の甘味料アスパルテームの売上げは、販売数量が前年同期を大きく下回るとともに為替影響も受け前年同期の売上げを大きく下回り、南米におけるアスパルテームを使用した粉末ジュース「Refresco MID®」（リフレスコミッド）の売上げは、為替の影響を受け前年同期を大きく下回りました。国内家庭用・外食市場向けの低カロリー甘味料の売上げは、前年同期を下回りました。

<医薬中間体>

為替の影響もあり、欧州での売上げが前年同期を大きく下回りました。

<化粧品>

化粧品原料の売上げは、国内、海外とも前年同期を下回りました。アミノ酸化粧品「Jino®」（ジーノ）は、前年同期をやや上回りました。コンピュータ用の層間絶縁フィルムは、前年同期をやや下回りました。

（医薬事業）

医薬事業の売上高は前年同期を14億円下回る181億円（前年同期比92.8%）、営業利益は前年同期を7億円下回る7億円（前年同期比50.2%）となりました。自社販売製品の売上げは薬価改定の影響を受け前年同期をわずかに下回り、提携販売品も薬価改定および競合品の影響を受け前年同期を大きく下回ったため、全体としても前年同期を下回りました。営業利益も売上げが減少したため、前年同期を大幅に下回りました。

自社販売製品では、肝疾患用分岐鎖アミノ酸製剤「リーバクト®」の売上げが前年同期をわずかに上回りましたが、成分栄養剤「エレンタール®」および電解質輸液「ソリタール-T」等の輸液類は前年同期を下回りました。

提携販売品では、糖尿病治療薬「ファスティック®」等のナテグリニド類の売上げが前年同期を大幅に上回りましたが、カルシウム拮抗降圧剤「アテレック®」の売上げは前年同期を下回り、骨粗鬆症治療剤「アクトネル®」等のリセドネート類の売上げは前年同期を大幅に下回りました。

（提携事業）

提携事業の売上高は、前年同期を7億円下回る436億円（前年同期比98.4%）、営業利益は、前年同期を11百万円下回る3億円（前年同期比97.1%）となりました。

<油脂>

販売数量は増加したものの、販売価格が下がったことなどにより、前年同期の売上げをやや下回りました。

<コーヒー>

売上げは前年同期から微減となりました。

（その他）

その他事業の売上高は、前年同期を2億円下回る174億円（前年同期比98.8%）、営業損失は、前年同期から1億円増加し3億円となりました。

（2）連結財政状態に関する定性的情報

当第1四半期末の総資産は、前期末の1兆970億円に対して444億円減少し、1兆526億円となりました。これは主として、自己株式の取得による現金及び預金の減少や在外子会社の貸借対照表の円貨への換算額が減少したことによるものです。

有利子負債残高は、前期末に対して28億円増加し、1,328億円となりました。

純資産は、利益剰余金は増加したものの、為替換算調整勘定の変動や自己株式の取得等から、前期末に対して340億円減少しました。純資産から少数株主持分を引いた自己資本は、5,736億円となり、自己資本比率は54.5%となりました。

（3）連結業績予想に関する定性的情報

平成24年5月8日に公表しました業績予想の修正は行っておりません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用の計算

当社及び連結子会社は、税金費用については、当第1四半期連結累計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる会社については、重要な加減算項目を加味し、法定実効税率を使用して計算しております。

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

（減価償却方法の変更）

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、当第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

これによる当第1四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益への影響は軽微であります。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	149,913	109,550
受取手形及び売掛金	206,952	200,850
有価証券	414	1,052
商品及び製品	96,855	98,446
仕掛品	7,960	7,500
原材料及び貯蔵品	42,842	41,005
繰延税金資産	8,329	8,640
その他	30,282	50,873
貸倒引当金	△1,173	△1,028
流動資産合計	542,375	516,892
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	350,782	342,456
減価償却累計額及び減損損失累計額	△213,132	△209,084
建物及び構築物（純額）	137,649	133,371
機械装置及び運搬具	508,031	491,931
減価償却累計額及び減損損失累計額	△392,678	△382,879
機械装置及び運搬具（純額）	115,352	109,051
土地	96,139	97,254
建設仮勘定	26,598	24,068
その他	71,837	71,263
減価償却累計額及び減損損失累計額	△58,893	△58,788
その他（純額）	12,944	12,475
有形固定資産合計	388,683	376,221
無形固定資産		
のれん	25,080	24,224
その他	34,107	33,201
無形固定資産合計	59,188	57,426
投資その他の資産		
投資有価証券	84,491	82,797
長期貸付金	1,057	1,047
繰延税金資産	7,796	6,021
その他	14,723	13,510
貸倒引当金	△789	△754
投資損失引当金	△470	△515
投資その他の資産合計	106,808	102,106
固定資産合計	554,681	535,754
資産合計	1,097,057	1,052,646

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	112,965	114,684
短期借入金	17,790	22,334
1年内償還予定の社債	—	20,000
1年内返済予定の長期借入金	4,406	4,014
未払法人税等	9,465	7,029
賞与引当金	6,896	4,435
役員賞与引当金	357	102
その他	87,572	79,431
流動負債合計	239,455	252,031
固定負債		
社債	69,990	49,991
長期借入金	34,847	33,844
繰延税金負債	14,786	15,802
退職給付引当金	62,962	60,852
役員退職慰労引当金	1,016	907
環境対策引当金	506	478
資産除去債務	584	595
その他	22,747	22,040
固定負債合計	207,442	184,512
負債合計	446,897	436,544
純資産の部		
株主資本		
資本金	79,863	79,863
資本剰余金	162,381	162,381
利益剰余金	444,728	449,304
自己株式	△2,219	△14,830
株主資本合計	684,755	676,719
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,678	3,189
繰延ヘッジ損益	△1	9
為替換算調整勘定	△81,603	△105,840
在外子会社の年金負債調整額	△478	△462
その他の包括利益累計額合計	△79,405	△103,103
少数株主持分	44,809	42,486
純資産合計	650,159	616,102
負債純資産合計	1,097,057	1,052,646

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)
売上高	296,395	296,725
売上原価	195,482	194,731
売上総利益	100,912	101,994
販売費及び一般管理費	79,240	82,723
営業利益	21,672	19,271
営業外収益		
受取利息	464	449
受取配当金	513	594
持分法による投資利益	928	736
その他	402	791
営業外収益合計	2,309	2,571
営業外費用		
支払利息	563	505
その他	784	483
営業外費用合計	1,347	988
経常利益	22,634	20,854
特別利益		
関係会社株式売却益	—	530
その他	372	272
特別利益合計	372	802
特別損失		
投資有価証券評価損	24	2,366
その他	1,241	631
特別損失合計	1,266	2,997
税金等調整前四半期純利益	21,739	18,659
法人税等	6,313	6,950
少数株主損益調整前四半期純利益	15,425	11,708
少数株主利益	1,485	1,686
四半期純利益	13,940	10,022

（四半期連結包括利益計算書）
（第1四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第1四半期連結累計期間 （自平成23年4月1日 至平成23年6月30日）	当第1四半期連結累計期間 （自平成24年4月1日 至平成24年6月30日）
少数株主損益調整前四半期純利益	15,425	11,708
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△388	588
繰延ヘッジ損益	△47	11
為替換算調整勘定	△5,742	△26,208
在外子会社の年金負債調整額	43	16
持分法適用会社に対する持分相当額	22	△717
その他の包括利益合計	△6,111	△26,310
四半期包括利益	9,313	△14,601
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	9,183	△13,675
少数株主に係る四半期包括利益	130	△925

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当社は、平成24年5月8日開催の取締役会において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法156条の規定に基づき、自己株式取得に係る事項について決議しました。これを受け、信託方式による市場買付の方法により平成24年5月9日から平成24年6月30日までに普通株式11,619,000株、12,592百万円の取得を行いました。

(5) セグメント情報等

I 前第1四半期連結累計期間（自平成23年4月1日 至平成23年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注)	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	国内食品	海外食品	バイオ・ ファイン	医 薬	提携事業			
売上高								
外部顧客に対する売上高	105,455	57,499	51,868	19,551	44,395	17,625	—	296,395
セグメント間の内部売上高	1,713	2,042	1,141	25	83	16,470	△21,476	—
計	107,169	59,541	53,009	19,577	44,478	34,096	△21,476	296,395
セグメント利益又は損失 (営業利益又は損失)	10,539	6,038	3,576	1,408	384	△274	—	21,672

(注) 「その他」には、健康ケア事業、包材事業、物流事業及びその他サービス事業が含まれております。

2. 地域に関する情報

(単位：百万円)

	日本	アジア	米州	欧州	合計
売上高	193,498	50,134	29,844	22,917	296,395
連結売上高に占める比率	65.3%	16.9%	10.1%	7.7%	100.0%

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

当第1四半期連結累計期間における、重要な発生及び変動はありません。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間（自平成24年4月1日 至平成24年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント					その他 (注)	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	国内食品	海外食品	バイオ・ ファイン	医 薬	提携事業			
売上高								
外部顧客に対する売上高	109,685	57,970	49,814	18,148	43,691	17,416	—	296,725
セグメント間の内部売上高	2,469	1,945	1,700	24	67	14,508	△20,716	—
計	112,154	59,915	51,515	18,173	43,759	31,924	△20,716	296,725
セグメント利益又は損失 (営業利益又は損失)	9,021	5,193	4,355	707	373	△379	—	19,271

（注）「その他」には、健康ケア事業、包材事業、物流事業及びその他サービス事業が含まれております。

2. 地域に関する情報

（単位：百万円）

	日本	アジア	米州	欧州	合計
売上高	194,968	50,345	28,849	22,562	296,725
連結売上高に占める比率	65.7%	17.0%	9.7%	7.6%	100.0%

（注）売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

当第1四半期連結累計期間における、重要な発生及び変動はありません。

（参考情報）

所在地別セグメント情報

前第1四半期連結累計期間（自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日）

（単位：百万円）

	日本	アジア	米州	欧州	連結
外部顧客に対する売上高	199,822	44,230	29,247	23,095	296,395
営業利益	11,704	5,976	1,177	2,814	21,672

当第1四半期連結累計期間（自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日）

（単位：百万円）

	日本	アジア	米州	欧州	連結
外部顧客に対する売上高	200,798	46,243	27,601	22,082	296,725
営業利益	9,362	6,288	2,343	1,277	19,271

（注）1．国又は地域区分は、地理的近接度により区分しております。

（注）2．本邦以外の区分に属する主な国又は地域

アジア：東アジア及び東南アジア諸国

米州：北米及び南米諸国

欧州：ヨーロッパ及びアフリカ諸国